

質の高い教育

芸術地域デザイン学部地域デザイン学科3年

21121115 川副竜太郎

私はアメリカのスリッパリーロック大学で約4ヶ月間の交換留学を終えて、日本では見ることのできない光景をたくさん見てきました。授業は5コマ履修していましたが、今回は特に履修科目の一つであった「アメリカ文学」についてお話ししたいと思います。

まず、先方の大学には、教科ごとにレベル分けがされていて、初級、中級、上級というような感じでした。そして授業は先着順で決まります。そもそもアメリカ文学について学習するのは初めてなので、初級を希望していましたが、私はなぜか上級レベルの授業に放り込まれてしまいました。教科書も3000ページ近くあり、授業もとてもついていけるようなレベルではありませんでした。初回の授業で教授がおっしゃっていた内容が、この範囲までは前学期終わらせたので、今学期はここから始めます、とのことでした。最初から頭を抱えてしまう内容でした。その授業では、テストが2回と大きなレポート課題が3回、授業の参加状況で評価が決まりました。留学が始まって1ヶ月が経った頃、初めてのレポート課題が課されました。授業内容すらまともにはわかっていないのに、何を書いていいのかわからなかった私は、授業の隣の席の人に質問攻めしたり、教授に相談に行ったりしました。すると親切に教科書のここを読んだらいいよ、というようにアドバイスをしてくれました。そのように周りの助けを借りながら、なんとか一学期間を乗り越え、無事に単位取得をすることができました。とてもレベルが高すぎて、半分以上単位取得に夢中になってしまいました。レポートにこんなにたくさん時間を割いたのは初めての経験でした。その教科では、他の生徒が書いたレポートも閲覧可能だったので、他のレポートも読んでみました。すると、私のレポート比べるととても質の高いもので、参考文献も私の何倍も使っていて、とても読み応えのあるものばかりでした。授業中も、教授が話している途中ですら、手を挙げて発言をする生徒がたくさんみられ、とても活発的な授業でした。その授業だけではなく、そのような光景は他の授業でもしばしばみられました。

このような授業の間に、気づいたことがいくつかありました。まず、居眠りをしている学生が誰1人いないことです。日本では授業中に居眠りをしている生徒が多数いることは周知の事実だと思いますし、私も実際うとうとすることがありました。そして、生徒の発言回数がとても多かったです。何人かの生徒に、なぜ居眠りをしている生徒が誰もいないのか、日本ではよく見かける光景だ、という話をしたことがあります。すると皆、学費が高いから、居眠りをするくらいならば時間とお金ももたないから大学にそもそも行かない、というように答えました。海外の大学に学費が日本と比べてかなり高価なことは有名ですが、どのようにして皆大学に通っているかということ、スチューデントローン組んでいる学生がほとんどでした。大学を卒業した後、皆返すようですが、額が膨大なので、長い間払い続けられないといけなそう

す。日本でも中には自分で学費を全て払っている生徒もいますが、ほとんどの人が親に払ってもらっていたり、奨学金をもらったりしていると思います。そのような事実の違いが、授業に対する誠意さや真剣さの違いを生み出しているのが一つに事実として見えてきました。そしてそのような意識の違いが、授業態度、例えば発言回数の多さなどに影響しているのだと思いました。そしてそのような姿勢が、レポートやテストなどの成果物のクオリティーの高さに表れているのだと思いました。私のレポートと周りのレポートを比較したときは、もちろん英語力の差もありますが、それを抜きにしても漠然とした差でした。

このほかにも、いろいろな人と関わっていたことで、さまざまなイベントに招待されることが増えました。例えばイベントの準備で、集合時間が設定されていましたが、私は集合時間の10分前には会場に着いていました。ですがその場には誰もいませんでした。しばらくして、みんなが集合したのが、初期段階で設定していた集合時間の20分後でした。このことから、日本人の時間に対する誠意さに気づくことができました。その時間に対する誠意さが日本人の良さである一方で、先ほども述べましたが、クオリティーの高さはどうなのかと考えたときに、レポートや最終発表の質の高さは、どれも質が高く、面白いものばかりでした。付け焼き刃で作ったような成果物は何一つなかったです。日本では、厳しい時間設定に追われるばかりで、成果物の質が低くなって位しまうことはしばしばあるのではないかと思います。

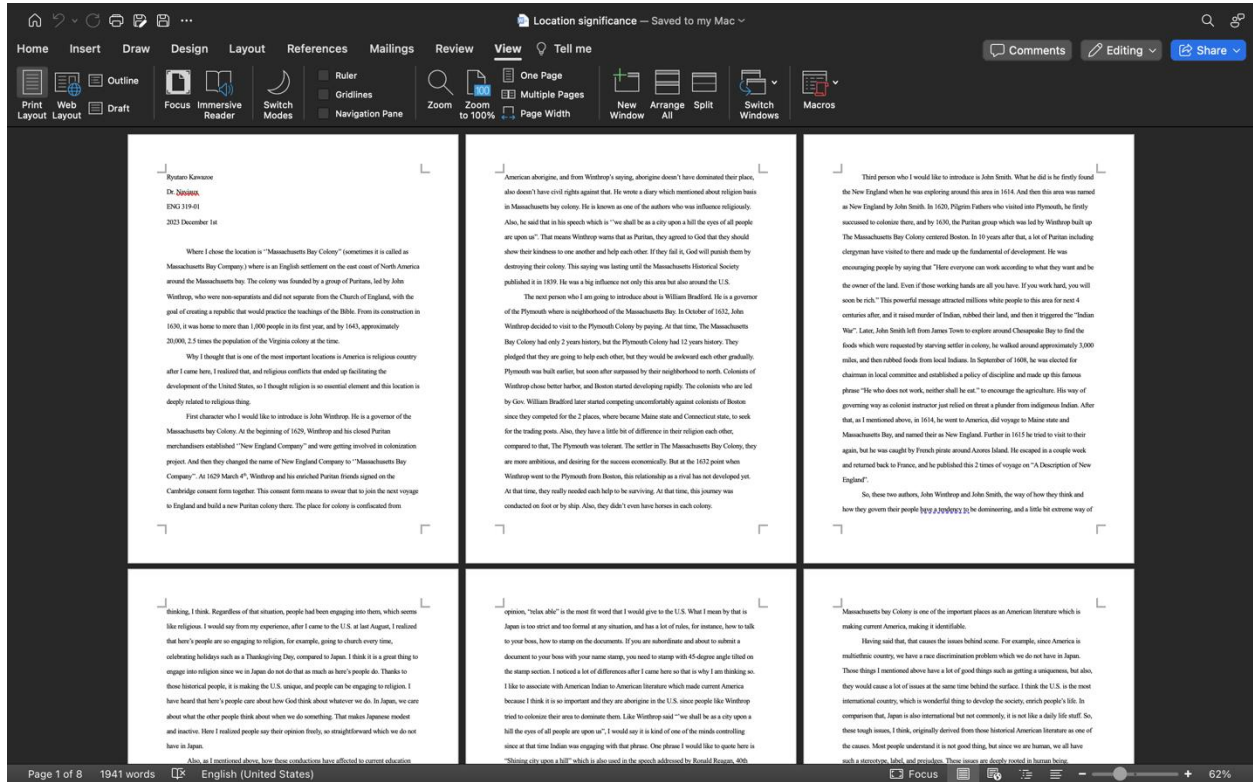
このことから、時間厳守と質を高くする、ということは、バランスが大事なのだと思いました。イベントの集合時間とレポートの質の高さは一見無関係のように思いますが、私は積み重ねだと思いました。一つ一つの授業の小テストであっても、適当に流すのではなく、時間厳守で質の高いものに仕上げる。そのように小さいものを積み重ねて、常にトレーニングすることで、バランスを取れるようになるのではないかと思います。それを実現するためには、時間の使い方を上手くなること、学校生活に対する考え方を見直すことが大切だと考えます。

これを現実社会に取り入れるために、大学に入学して初期の段階で、学費などに関する、道徳のような授業を行うことで、大学に通えているという現状に感謝する学生が増え、学校生活に対する姿勢が変わる学生が増えていくのではないかと考えました。日本人はシャイだというイメージはアメリカでも健在でした。発言回数が増えるような環境を作るのはなかなか難しいかもしれませんが、学費に対する見方が変われば、少しずつそのような学生が増えていくのではないかと思います。

留学前と後で変化した意識は、学校生活に対してです。私自身も、上述したような意識が留学前はあまり高いとは言えない状況でした。そのせいで、大学で行われているイベントなどにもあまり関心がなく、足を運ぶ機会はあまりありませんでした。留学を終えた今、在校生に留学に興味を持ってもらうために発表や話をする機会が増えているため、まずはそのような場で、適当に流すのではなく、時間厳守で、丁寧に行なっていこうと思いました。そして、アメリカでいろいろな文化や言語の人と関わることで、第二言語を扱うことの面白さを改めて実感することができたので、大学にいる海外の人と関わる機会を増やしたりなど、自分から行動を

起こすことを増やそうと思いました。英語力向上にもなるし、自分にはない考え方を聞く選択肢を増やすことができ、自分の意見をより豊かにすることにもつながると思いました。

アメリカ文学のレポートの一部



インターナショナルディナーの集合写真



日本人2人で参加したファッションショー